

# 龍源寺報

85号

## 龍源寺住職、曹洞宗 新潟県第一宗務所所長 任期満了

令和四年十二月十日をもちまして龍源寺住職、曹洞宗新潟県第一宗務所の所長の任期を全う致しました。平成二十八年より副所長を四年、その後所長を四年、計八年の長きに渡り勤めました。第一宗務所は新潟県の中越地区と新潟市の一部の曹洞宗寺院を取りまとめる組織で、長岡市学校町にあります。長岡市に週二日、行事等があればそれ以上、様々な会議、宗務所内での晋山結制、



十日町市・円通寺様にて

お寺さまの本葬儀への参加など、第一宗務所内の曹洞宗寺院の代表として多くの仕事がございます。何より任期中は新型コロナウイルス感染症への対応等に追われたことが最も大変なことだったように思います。お寺を空けることも多々ありましたが、檀信徒のご協力とご理解、誠にありがとうございました。



現職 研修にて



宗務所梅花大会にて



## 来年の龍源寺伽藍屋根普請について

平成二十九年より檀信徒の皆様よりご協力いただいている龍源寺伽藍屋根普請のご寄付ですが、来年度より屋根の普請となります。七年間をかけて皆様よりご協力いただき、お寺も準備を進めていくという計画の通りになります。消費増税、ウツドシヨック、ロシアのウクライナ侵攻等、当初予定の予算で収まらない可能性が大きい状況です。そして実際に屋根を開けてみての状況がどうなっているかで工事の具合も変わりそうです。幸い、多くの檀信徒からご協力いただき、篤志のご寄付も集まっております。令和五年、雪が消え次第工事が始まっていくと思いますが、現行ほとんどの檀信徒がお寺を利用しての葬儀・法事という状況でございますので、法要への影響等考えられます。工事へのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

Instagramアカウント  
@shinkenzan1582

龍源寺ホームページ

龍禪沙弥、  
円通寺様結制において  
弁事和尚を勤めました



龍源寺副住職の長男・龍禪沙弥が令和四年十月三十日に厳修された十日町市円通寺様の晋山結制において弁事というお役を勤めました。このお役は法戦式という儀式において首座というお役の僧侶を補佐する役目があります。初めての経験でしたが当日は法戦式において、自分の役目をしっかりと果たしておりました。

尚、この円通寺様の儀式では、龍源寺住職は新潟県第一宗務所所長として、副住職は法要の裏方の責任者・知殿というお役を勤めて参りました。ここに報告申し上げます。



令和四年度、  
大般若祈祷会厳修

毎年、六月の第二日曜日に厳修されている大般若祈祷会、今年は三年ぶりに檀信徒の参加を解禁して無事勤め上げることができました。この度は説教師に曹洞宗専門僧堂（修行道場）、静岡県可睡齋にて西堂というお役を勤めている石川光学老師をお招きして、説教をお勤めいただきました。可睡齋といえば毎年雛祭りの時期にテレビにもよく取り上げられているお寺で、秋葉権現の祈祷寺・秋葉総



本殿として全国に名を馳せている名刹です。可睡齋という名称は徳川家康に由来する名称で、家康を幼少の頃より可愛がっていた十一代目の御住職が晩年、成長した家康に謁見の際、長旅の疲れから眠ってしまった、部下たちが無礼であると憤る中、家康が「和尚、我を見ることが愛児の如し。故に安心して眠る。我その親密の情を喜ぶ、和尚、眠るべし」と発言したことに由来するそうです。故に可睡（眠るべし）齋（お寺）という名称になったそうです。石川老師に説教をいただくのは今回で二回目となります。この度も素晴らしいお話をお聴きしました。

説教の後は大般若祈祷会を厳修。参加者のもとより、龍源寺檀信徒の諸災消除・諸縁吉祥等、十六善神様にお祈り申し上げます。



石川老師



秋葉総本殿 可睡齋  
公式ホームページ

令和四年度、山門  
大施食会厳修

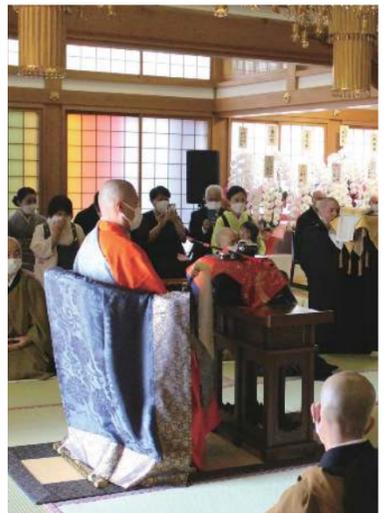
毎年八月七日に勤まる山門施食会、今年も厳修されました。新盆の仏さま始め、参加者や檀信徒の先祖代々、有縁無縁三界の萬霊等の供養。新盆の方には案内を差し上げていますが、どなたでも参加できる法要です。龍源寺ではお彼岸に檀信徒を集めての供養法要というのを行っていませんので、お盆の前のこの施食会への参加を普く勧めるところでございます。震災で亡くなった方々、戦争で亡くなった方々、事故や事件で亡くなった方々、いろいろな仏さまがいらつしゃいます。自分とは無縁の仏さまにも手が合わる、そんな機会に是非していただきたいところがございます。



龍源寺住職次男・賢龍和尚、  
晋山結制厳修



令和四年五月二十八日・二十九日、宮城県仙台市大蓮寺にて賢龍和尚の晋山結制式が厳修されました。この儀式を勤めたことにより、賢龍和尚は正式に大蓮寺住職となり、大和尚と呼ばれる位となりました。当日は龍源寺からも住職と副住職、四男の哲龍座元と寺族聡子が儀式に参加してまいりました。当日は大勢の御寺院様の随喜もあり、無事円成となりました。津南町からは遠い地となりましたが、大蓮寺檀信徒や地域のために一生懸命勤めていくことと思えます。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



葉の叢  
ことのはきんさく  
第26回

栽松

栽松とは松の苗木を植えるという事です。これは中国唐代の僧・臨済義玄禪師の故事に由来する言葉です。臨済禪師といえば臨済宗の開祖としても知られた方ですが、臨済禪師が松を植えていると、そこに黄檗禪師という方が来て問いました。「こんな山奥に松を植えてどうするつもりか」、臨済禪師は、「一つには寺の風致を整え、二つには後世の人のための導とするためです」と答えました。禅僧同士のやりとりでございませぬのでここに言外の意味もあるかもしれませぬが、ここでは臨済禪師の言葉の通り、「風致を整える」「後世への導」ということに着目したいと思います。

風致とは趣きや味わいという意味ですが、今現在の景観をよくすることと同時に、後世のことも考えて松を植えているのが臨済禪師の行為なのです。この後、黄檗禪師は「それがなんだというのだ」と迫りますが、臨済禪師は黙々と植えたということです。その姿を見て黄檗禪師は「我が宗門はお前の代で大いに興隆するだろう」と言い残したそうです。これは未来を予見した言葉です。

場にある私としては今年で丁度開創四四〇年となる龍源寺のその先の百年を意識してしまうところですが、課せられた責任から逃げず、私自身は今の「行為」が未来へと繋がっていく大切な「行い」であるのだということを肝に銘じ魂に銘じて生きていきたいです。



### 伽藍境内普請報告

#### 鐘撞堂修理

鬼瓦寄進 割野 大平政栄 殿

昨年の大雪により、かねてより腐食が進んでいた鐘撞堂の鬼瓦が壊れてしまいました。割野・大平木工さんに修理を依頼したところ、新しい鬼瓦の寄進をしてくださいました。龍源寺の寺紋もしっかりと入った素晴らしい鬼瓦です。御寄進、誠にありがとうございました。



#### 庫裡玄関前、スロープ設置

昨今では、龍源寺の本堂を使用するの葬儀や法事がほとんどとなっております。かねてより懸案であったスロープを庫裡玄関前に設置いたしました。お寺はどうしても段差が多い構造となっております。部分的ではございますが、参拝のしやすい伽藍へと普請して参りたいと考えております。



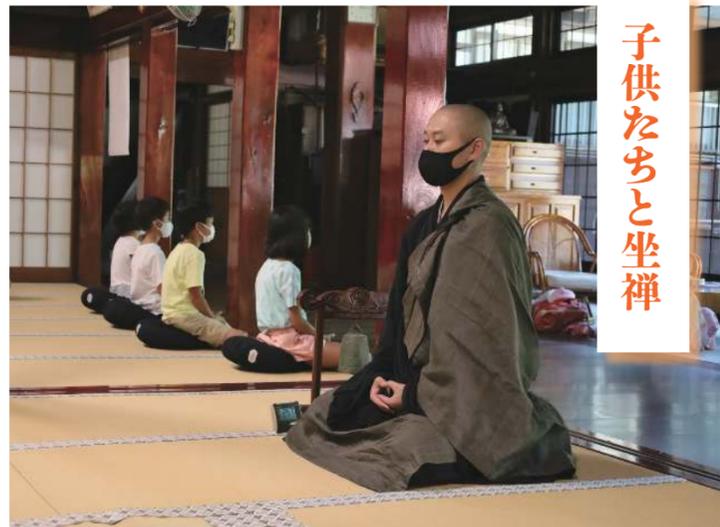
#### 境内各所、側溝設置

豪雪地帯に建立されている龍源寺でございますが、消雪による水の使用量も大変なものがございます。水や雪による境内の破損も多々あり、その軽減へと繋げるため境内各所に側溝を設置いたしました。引き続き豪雪から伽藍や境内を護るための普請に勤めて参りたいと考えております。



#### 子供たちと坐禅

八月、小学校の夏休み期間、たくさんのお小生の皆様がお寺で坐禅を修行致しました。津南町で剣道を頑張っている子供たち、NPO法人タップさんの子供たちと二組、一生懸命坐禅を修行しておりました。また機会がありましたらお寺で一緒に坐禅を修行致しましょう。



#### 猟友会による鳥獣供養

龍源寺の境内にあるベットの墓の横に鳥獣供養塔があります。ここでは毎年十一月に地元猟友会によって鳥獣供養法要が営まれております。近年、獣害が多数報告されておりますが、この獣害に對する供養という行為は非常に大切なことのように感じます。この行為がまた謙虚な気持ちで銃を扱うことに通じるのではないかと思うのです。檀信徒の皆様にかれましてもお寺に来た際は手を合わせていただけたらと思います。

